



若手研だより

高岡市教育センター
令和7年12月12日

「若手教員研修会」は、4・5年次の教員56名が参加し、全5回実施しました。子供理解、危機管理、学習指導等、様々なテーマを設定し、若手教員の資質や実践的指導力の向上を目指しました。研修の様子をまとめて紹介します。

◇第1回 5月27日(火) 伏木コミュニティセンター

指導講話「子供理解と学級づくり」

講師：高岡市立博労小学校 校長 森田 芳栄 先生



開講式に続き、高岡市立博労小学校 校長 森田 芳栄 先生からご講演いただきました。「子供を様々な視点でみる」「心情に寄り添う」等、教師として大切な「児童生徒を理解する手立て」について考えることができました。目の前の子供を真剣に思う心、そして、子供の「今」を信じることにについて教えていただき、受講者は実践への意欲を高めていました。

【感想より】

- ・教師として最も大切なのは、児童理解であることを学びました。目の前にいる児童が何を考えているのか、何を思っているのか、何に困難さを感じているのかなどを想像し、手立てを考えていく必要があると思いました。また、教師の言葉は、児童にとって大切な言語環境になるため、一人一人のよいところをたくさん見つけ、褒めていきたいと思います。
- ・今回の研修会で、目の前の子供のことを真剣に思い、分かろうとする心が児童理解において大切だと学びました。一人一人の言動の背景には、児童によって異なる困り感があり、その困り感を想像し理解することは「分かろう、分かりたい」という心がなければいけないことだと思いました。児童に対する見方を「困った子」ではなく「困っている子」と見ることで、より寄り添いながら支援できる教師になりたいと思いました。

◇第2回 7月28日(月) 伏木コミュニティセンター



講演 「学校マネジメントに挑戦！」

講師：富山大学 学長特命補佐 林 誠一 先生

富山大学 学長特命補佐 林 誠一 先生をお招きし、ご講演いただきました。演習では、勤務校の「よいところ・課題」について課題の原因を解消するために何を実行するか、グループで考えを出し合うことを通して、「探究する」意義を体感することができました。子供たちが「生きる力」を身に付けるための授業や活動を実施していくとともに教員自身が主体的に考え、行動していくことが大切だという思いを強くしました。

【感想より】

- ・「学校マネジメント」と聞き、4年次5年次の教員へ向けた研修としてどのような内容なのだろうという思いがありましたが、講義の中で様々なことを自分事として捉えること、周りの先生方の学校の様子を知ることで、新たな考えが生まれることを学びました。今後、子供たちが生きる力を身に付けるためにも、教員は研修が必要だと感じましたし、学校をよい方向に変えていくためには、私たち若手ができることもたくさんあると学ぶことができました。
- ・今回、実際に自分たちで行った考える活動を基に、何か問題があったとき「どうしよう」とばかり考えるのではなく、まずは現状に目を向けることから始めたいと思いました。指示を待って動くことが多くなってしまいがちですが、「教員が主体的に」ということを忘れず、自分で考えて動いていきたいです。また、「制度よりも先生の力」の大切さを感じ、自分の指導の際の言葉選び等、さらに高めていくべきだと思いました。



◇第3回 8月5日（火） 伏木コミュニティセンター

指導講話 「学校の危機管理について考える」

講師：高岡市教育センター 所長 高松 毅

危機管理をテーマに、高岡市教育センター 高松 毅 所長が講話を行いました。学校における危機管理や職務・サービスに関わる危機について、講話とともにグループ協議を通して、様々な事例から考えました。また、自身の経験を交えながら、若手教員へ温かいメッセージが贈られ、教員という仕事の魅力を改めて感じる機会になりました。



【感想より】

- ・災害や事故、保護者対応等、いつ何が起きても適切に対応することができるように、様々な危機の想定や予防をしたり、事後対応をしたりすることが大切であると学びました。また、何か起きた際には、正確な事実確認や丁寧な説明、再発しない手立ての説明を行うことが大切であると分かりました。日頃から、危機へのアンテナを高くし、最悪な事態になった際はどのようにするかシュミレーションをしておくことで、落ち着いて対応することができるのだと思いました。



- ・事例を基に、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの両面から考えることで、実際に起き得る対応を考えることができてよかったです。また、5年目で、この仕事に慣れてくるころだからこそ、「子供のために」「子供に伝わらなくても粘り強く向き合い続ける」「どの子供もよりよく生きたいとする心をもっている」など、教師としてどうあるべきか、この仕事との向き合い方も教えていただき、改めて2学期からまた頑張ろうという気持ちになりました。

◇第4回 A班 9月24日（水）高岡市立能町小学校

示範授業（小学校・特別活動）

議 題：「もっと下級生と仲を深める『のうまちっ子祭り』の内容を計画しよう」

学級活動(1)（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

授 業 者：高岡市立能町小学校 教諭 番匠 健太郎 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



第4回A班では、能町小学校の番匠 健太郎 先生の学級会を参観させていただきました。毎日の丁寧な学級運営を基盤として、子供たちが自らの意見や他者の意見を大切にしながら、合意形成を図っていく過程を拝見させていただきました。

学級会は難しいと感じている、どのように進めたらよいのか悩んでいるという若手教員が多い中、今後、学級会を充実させていこうとする意欲を高めることにつながった示範授業でした。

【感想より】

- ・安心して話すことのできる雰囲気づくり、友達の意見につなげようとする姿、友達の意見を認めようとする姿等、日々の指導の積み重ねの大切さを再認識できました。



- ・「子供たちの衝突がチャンス」という言葉を聞き、はっとしました。衝突を避けるために前もってルールを決め、衝突が起きたときは、教員が指導して終わりがちでしたが、自分たちで話し合い、折り合いをつけることの重要性を学びました。

- ・番匠先生は、ご自身の軸だけでなく、学級や学年の軸も明瞭にし、どこへ進むべきか、何をすべきかなどが、子供同士で気付けるようにしておられ常に子供たちが自分事として捉え、解決に向けて動けるようになっていると思いました。

◇第4回 B班 9月30日（火）高岡市立福岡中学校

示範授業（中学校・道徳科）

主 題 名：「誇りをもって働くために」〔C－(13) 勤労〕

教 材 名：「新しいプライド」

（出典：東京書籍「新しい道徳1」）

授 業 者：高岡市立福岡中学校 教諭 松本 有未 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員



第4回B班では、福岡中学校の松本 有未 先生の示範授業を参観させていただきました。参加者は、ワークショップの中で、学習規律、学級運営との関わり、ICT機器を活用した導入の工夫、板書やまとめの工夫等、先輩の授業に学べる点をたくさん出し合いました。

若手教員同士、班の発表を聞き合い、日頃の学級運営が重要であることを再確認した上で、次の道徳科の時間に自分が取り入れたい手立てについて考えていました。

【感想より】



- ・ICTを活用した導入の工夫や発問の明確さ等、大変勉強になりました。松本先生の学級運営がすばらしく、その土台があるからこそ、考えの変容がみられたのだと思います。
- ・事前にアンケートをとって生徒の実態把握をしたり、心情円盤を用いて心情の変化を捉えたりと、指導の手立てをたくさん学ばせていただきました。
- ・常に全体のことを考えておられ、一人の意見を全体で確認したり、異なる意見を受け入れる姿勢でおられたりすることで、生徒が安心して話し、素直な思いを書いたり、伝えたりする様子を見させていただきました。

◇第5回 A班 11月19日（水）高岡市立高陵小学校

若手代表教員研究授業（小学校・特別活動）

議 題：「『一致団結パワーアップ集会2』を計画しよう」

学級活動(1)（ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

授 業 者：高岡市立高陵小学校 教諭 中尾 舞香 先生

指導助言者：高岡市立戸出東部小学校 教頭 宮森 美香 先生

アドバイザー：高岡市教科指導員

第5回A班は、高陵小学校の中尾 舞香 先生が、学級会「『一致団結パワーアップ集会2』を計画しよう」を行い、若手教員が参観・協議会に臨みました。子供たちは、クラス全体でもっと協力して楽しめる集会にするために、活動の内容について活発に話し合いました。「一致団結」するためにどのような活動をしたらよいか、活動のよさや心配されることについて、友達の意見を十分に聞きながら話し合う姿が印象的でした。協議会では、概念化シートを使ったワークショップを行いました。授業者や子供たちのよさ、改善点をまとめ、今後の自分の学級運営や授業に生かしていこうと意欲を高めました。指導助言では、学習指導要領の内容を踏まえ、学級会をよりよいものにするための手立てについて具体的にご指導いただきました。

【感想より】



- ・話し合う回数を重ね合意形成を図る体験を増やしていくことで、よりよい集団となってくるのだと感じました。私も学級会への苦手意識を捨て、チャレンジしていこうと思いました。
- ・司会の児童が発言者の言葉を補って確認したり、「～でいいですか」と自分たちで進行したりする姿が素晴らしかったです。学級が育っているなと思いました。
- ・子供たちだけでスムーズに話し合いができるようになるまでに、事前に考えをもつこと、司会進行係と綿密な打合せを行うことなど、事前準備の大切さを知ることができました。



若手教員研修会の協議会について



今年度の若手教員研修会は、第4回の示範授業、第5回の若手教員代表授業の際に、ワークショップ型協議会を行いました。学校DXが進み、学習専用端末を活用した協議会が昨今増えてきました。教育センターでも、昨年度までの若手教員研修会では、学習専用端末を使った協議会を実施していました。「自分の考えをまとめる際に、グループ内の他の受講者の考えを参照することができる」、「他のグループの協議内容を閲覧することができる」などのよさがある一方、「文の入力ばかりに力が注がれる」、「スペースが小さい」、「それぞれが自分の学習専用端末を見ているからか、グループ内の会話が少なくなる」などの様子も伺えました。

そこで、今年度の若手教員研修会では、あえて全員で模造紙を囲み、付箋紙に考えを書いて整理していくKJ法と概念化シート作成のワークショップ型協議会を行いました。示範授業では、先輩教員からの学んだことをまとめ、若手教員代表者の授業では、成果と課題を子供の姿と教師の手立ての面から話し合い、課題についてはみんなで改善策を考えました。大変、活発に協議がなされ、それぞれが自分事として捉え、今後生かしていこうとする意欲がみられる研修となりました。

【第4回若手教員研修会 KJ法】



【第5回若手教員研修会 概念化シート】



今年度の「若手教員研修会」を終えて

若手教員研修会では、学級づくりや危機管理、学校マネジメントに関する内容について、講師の先生方からご教示いただき、テーマに応じたグループ協議を行いました。また、研究授業を通して、子供との関わりや教師の様々な手立てについて学びました。講義から新たな知見を得るとともに、協議の中で多様な価値観に触れ、自分の思いや考えをアウトプットし整理していくことで自分の中に落とし込み、今後の実践や自信へとつなげていただけたら幸いです。

今後も、先生方が主体的に学んで自分の引き出しを増やし、教員としての資質向上を図ることができるよう、研修を工夫していきたいと思います。

若手教員研修会を実施するにあたり、講師や指導助言者、示範授業者、アドバイザーとしてご指導くださった皆様、会場を提供してくださった学校の皆様、そして、若手教員を研修に送り出してくださった勤務校の皆様に感謝申し上げます。

